

今回から6回シリーズで、「がんを見つけだす人間ドック・健診」をテーマに健康便りを発行します。

今年度第1回は「健診センターと病院を利用する場合の違いについて」～健診のために受ける検査と病気で受ける検査の違いとは何か?～をお伝えします。  
(文責：工藤)

がんや生活習慣病の病気の早期発見には健康診断が欠かせません。

予防医学センターなどいわゆる健診センターで受けていただく検査の多くはスクリーニング（ふるいわけ）検査と呼ばれ、病気の可能性のある方を最初に拾い上げるための検査です。その結果見つけ出された異常所見に焦点をあてて、病院などで精密検査検査が行われることになります。

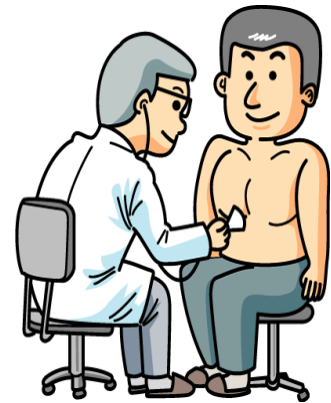
健診すなわちスクリーニング検査を受けて終わりではありません。健診の結果、「要精密検査」の指示が出された場合は、きちんと病院を受診し、更に詳しい精密検査を受けて初めて健診が完成すると言えます。

健診を上手に活用し、病気を早期に発見・予防するための、健康診断の受け方、生かし方についてお伝えします。

## ● 病気の早期発見には、健康診断がかかせない！

日本人の死亡原因の上位を占める病気は、「がん」および、「動脈硬化性疾患」と呼ばれる、虚血性心疾患・脳血管疾患です。どちらも早期には自覚症状がありません。また動脈硬化性疾患の危険因子である高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も初期には自覚症状がありません。

従って症状が出てきた段階では、ある程度進行した状態であるということが言えます。がんや生活習慣病を早期に発見するためには、自覚症状のない段階で、画像検査や血液検査等を受ける機会となる健診がかかせません。



しかし

## ● 健康診断自体は、病気であるという自覚症状のない人を対象とします。

時々、「〇〇の調子が悪いが、そのうち健診があるから受診していない。」とおっしゃる方がいますが、自覚症状がある時は、健康診断



で検査を受けるのではなく、医療機関（病院）を受診し、症状に合わせた診断・治療を受けることが必要です。

自覚症状のない段階で検査をする健診センターと、自覚症状があって受診する病院とは役割が異なることを知っておくとよいでしょう。

#### ●健診結果で異常があった場合放置しない

健診で異常が疑われ、「要精密検査」と判定されても、「症状もないし」「たいしたことはないだろう」と軽く考え精密検査を受けない人が少なくありません。

健康診断はもともと自覚症状がない早い段階で病気を見つけることを目的としたものですから、現在症状がないのは当然です。

「要精密検査」の指示が出たらすぐに専門の医療機関（病院）を受診し更に詳しい精密検査を受けてこそ健診を受ける意味があります。



#### ●「異常なし」の場合でも自分の健康を過信しない

また、健診結果が「異常なし」であったとしても、それはあくまでも検査を受けた時点での健康状態を示すもので、その後の健康状態を保障するものではありません。

何らかの症状が現れたり、心配なことが出てきたら、“健診では異常がなかったから”などと考えずに、医療機関（診療所、病院など）を受診することをお勧めします。



#### ●健診の限界について

検査の高い精度を維持するよう努力しておりますが、健診でのスクリーニング検査には一定の限界があり、検査を受けても、潜んでいる病気を100%発見できるものではありませんし、病気の疑いと判定をされても実際にすべて病気であるとは限りません。

したがって、健診で異常がなくても体調の変化があった時などには早めに医療機関を受診すること、異常があって精密検査の指示が出た場合は必ず検査を受けて確認することが大切です。

\*定期的に健診センターで健康診断を受け、危険なサインを見逃さないようにすることが大切です。

\*健診の結果、要精密検査の指示がでた場合は、医療機関（病院）を受診し、更に詳しい検査を必ず受けましょう。

